

▶放射線科からのお知らせ

放射線科の IVR 体制について

現在、常勤 IVR 専門医 2 名、非常勤 1 名により各種血管系、非血管系 IVR を担当科との協力のもとに施行しています。

●当院での IVR 施行実績 (2022 年 11 月～ 2024 年 11 月)

緊急止血術 31 件

肝細胞癌に対する TACE 8 件

胃静脈瘤に対する BRTO 4 件

術前門脈塞栓 1 件

内臓動脈瘤 3 件 (脾動脈瘤 2 件、腎動脈瘤 1 件)

血管奇形 1 件

良性腫瘍、悪性腫瘍に対する TAE 2 件

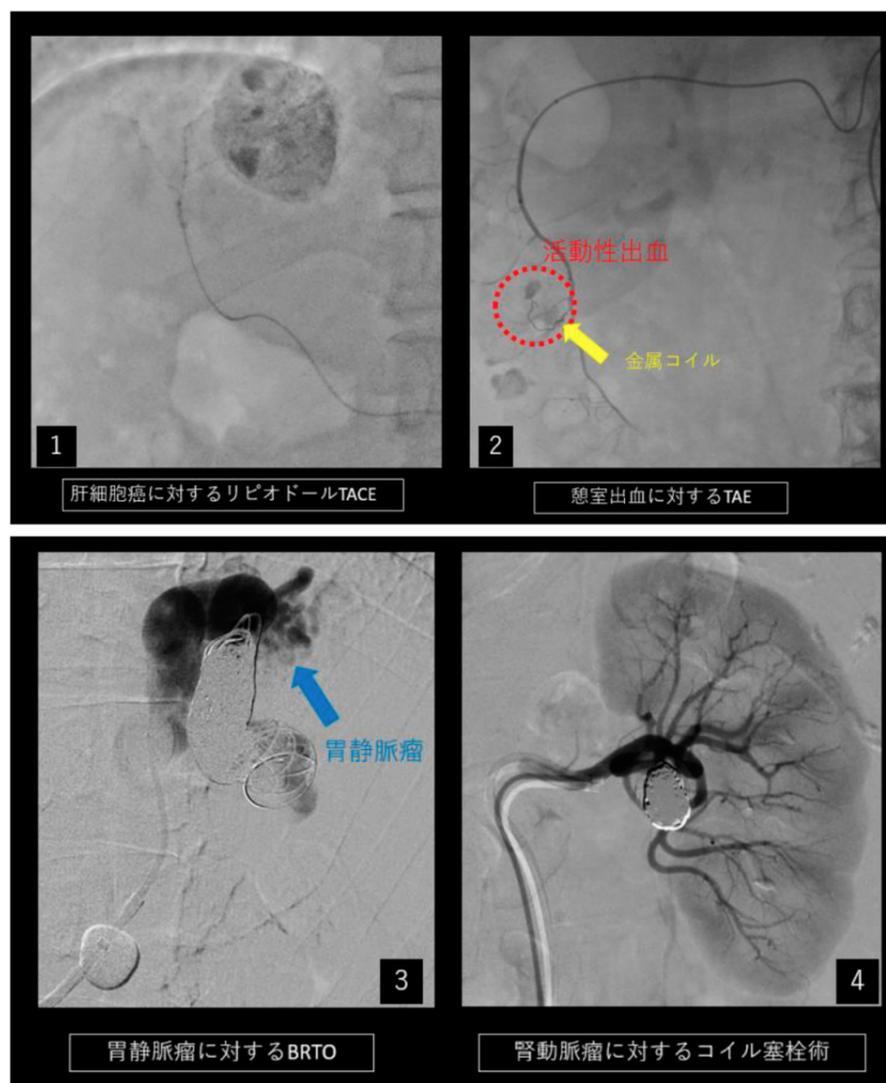
CT ガイド下生検 3 件

CT ガイド下ドレナージ 5 件

当院で施行される IVR のうち、緊急止血術が最も多く、消化管出血に対する TAE や喀血に対する BAE、その他外傷に伴う出血に対する TAE に対応しています。上記の手技の他、仮性動脈瘤に対するカバードステント留置術や副腎支脈静脈採血も当院で対応可能です。

●当院での IVR 施行例 (右の症例写真をご覧ください)

- ▶**症例 1** : 肝細胞癌に対してマイクロカテーテルを栄養血管まで選択し、エピルビシンとリピオドールによる TACE を施行しました。当院では症例ごとに塞栓物質を選択しています。球状塞栓物質を使用することもあります。
- ▶**症例 2** : 上行結腸憩室出血に対して責任血管に対して金属コイル塞栓を施行した一例。
- ▶**症例 3** : 胃静脈瘤に対して GR シャントをダブルバルーンカテーテルで選択しました。流入血管を金属コイルで塞栓したことで、胃静脈瘤の描出が得られた症例です。オルダミンを用いて治療を施行しました。当院ではカテーテルの長期留置による患者さんの負担軽減を目的に最後に排血路をコイル塞栓しています。
- ▶**症例 4** : 腎動脈瘤に対してコイル塞栓施行した症例。バルーンカテーテル補助下に塞栓をおこない、腎動脈の温存ができました。



当院での IVR をご依頼される先生方へ

IVR のご依頼がある場合は、地域連携室に患者さんをご紹介ください。担当される各科の医師と協力して治療を行ってまいります。

地域医療連携室 : TEL 048-564-2537 / FAX 048-564-2538